

平成 29 年度 ここに残る水辺景観 応募内容の分析

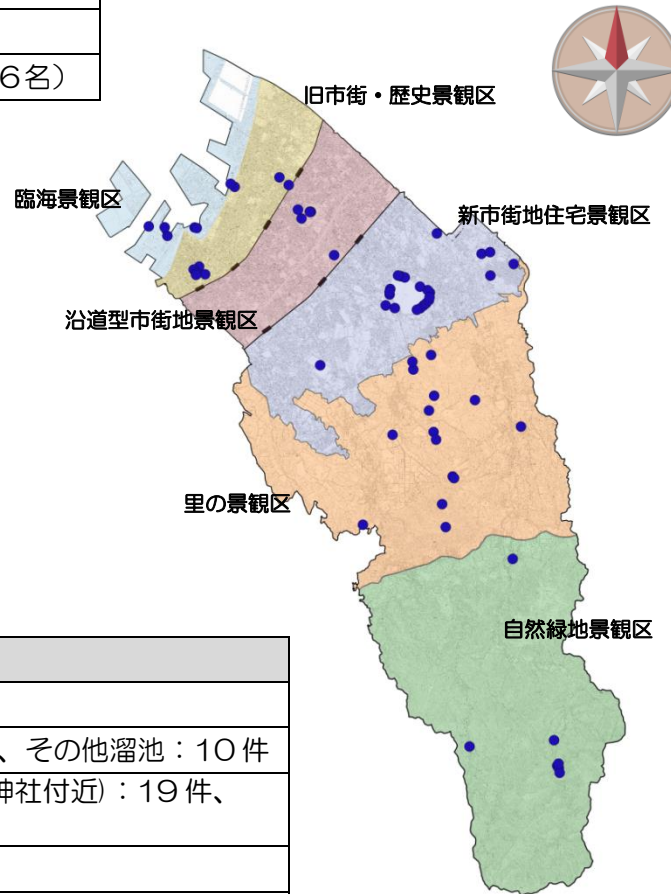
① 応募状況

- ・応募件数：67 件
- ・応募者情報

内容	数量（うち新規応募者）
応募者数	27 名（10 名）
平均年齢	57.6 歳（52.5 歳）
性別	男性：17 名（4 名）女性：10 名（6 名）

② 応募作品の景観区

景観区	件数	割合(%)
臨海景観区	6	9
旧市街・歴史景観区	9	13
沿道型市街地景観区	7	11
新市街地住宅景観区	23	34
里の景観区	15	22
自然緑地景観区	7	11



③ 応募作品の場所

主な場所名	場所名及び件数
臨海部	岸和田旧港（漁港含む）：5 件
ため池	久米田池：16 件、摩湯山古墳：2 件、その他溜池：10 件
河川	牛滝川：4 件、春木川(神於山、兵主神社付近)：19 件、津田川：1 件
建造物	岸和田城：6 件
農地等	農地・水路：4 件

④ 応募要件の分類

応募要件	件数
豊かな生態系の恵みが感じられるもの	14 件
水辺とともに生きる人々の営みや四季折々の趣が感じられるもの	26 件
海辺のウォーターフロント再生など、賑わいや親しみが感じられるもの	13 件
歴史の風情や洗練された新しさにより魅力が感じられるもの	6 件
要件に該当しない	8 件

⑤ 作品の撮影距離

- ・遠景（概ね 2km 以上）：10 件、中景（概ね 300m～2km）：34 件、近景（概ね 300m 未満）：23 件

⑥ 季節、時間帯及び天候等の自然的要素に関するもの

- ・季節に関するもの：49 件（春：11 件、夏 10 件、秋：3 件、冬：8 件、通年：17 件）、関係しないもの：18 件
- ・天候に関するもの：16 件、関係しないもの：51 件

平成 29 年度 ここに残る景観資源発掘委員会の概要

① ここに残る景観資源発掘委員会の開催状況及び主な議事内容

開催日		主な議事内容
第 1 回	H29/11/29	→事務局よりまちかど審査上位 20 位以内の写真と動画を説明。 (応募作品の選考に関すること) ・推薦資源は写真だけではなく周囲も含めた場所を考慮すべきである ・桜など鑑賞できる期間が限定される作品についても、それも景観要素であり、ARなどを活用し補完すべきである。 ・過去の指定作品との重複について検討すべきである。 (一次選考の基準に関すること) ・一次選考は、募集要項にもあるように水辺と人の関わりが感じられるものを考慮した。 ・市域全体のバランスを考慮した。 ・過去に選考された岸和田城や久米田池について、季節や違った視点場により優れたものに関しては選考すべきである。 ・鳥など生態系に関する応募作品の評価は悩ましい。 →23 作品を一次選考する。また、現地調査等について議論。
第 2 回	H29/12/6 (現地調査)	(現地調査時の感想など) ・水辺と人との関わりが感じられない水辺は選考しない。 ・視点場までのアクセスや周辺環境を含めた総合的な評価をすべきである。 ・岸和田らしい景観となる岸和田城や久米田池の応募作品の取り扱いをどうするのか検討すべきである。 ・応募要項にある「効果」や「生態系」について検討すべきである。 →現地調査（7 件）を行い、最終選考に際しては「周辺を含む現状」「人との関わり」及び「啓発効果」の 3 つの視点により審査することを確認
第 3 回	H29/12/27	→事務局より、現地調査が出来なかった「岸和田漁港」と「摩湯山古墳」の動画を説明 (推薦作品の審査に関すること) ・一次選考のうち、前述の 3 つの視点を考慮し推薦作品を選考する。 ・岸和田城と久米田池については、応募件数やまちかど審査による結果を踏まえ、岸和田を象徴するものであり、かつ新たな視点場や季節により異なる景観要素を有しているものについては、選考の対象とする。また、今後本 P J においては部門の創設が望ましいのではないかと。 →推薦資源を 9 件とする。

第 2 回ここに残る景観資源発掘委員会 現地調査の様子



牛滝山大威徳寺 一の滝



内畑町 田んぼへの水引きの始まり



田治米町 ポピー咲く七ツ池

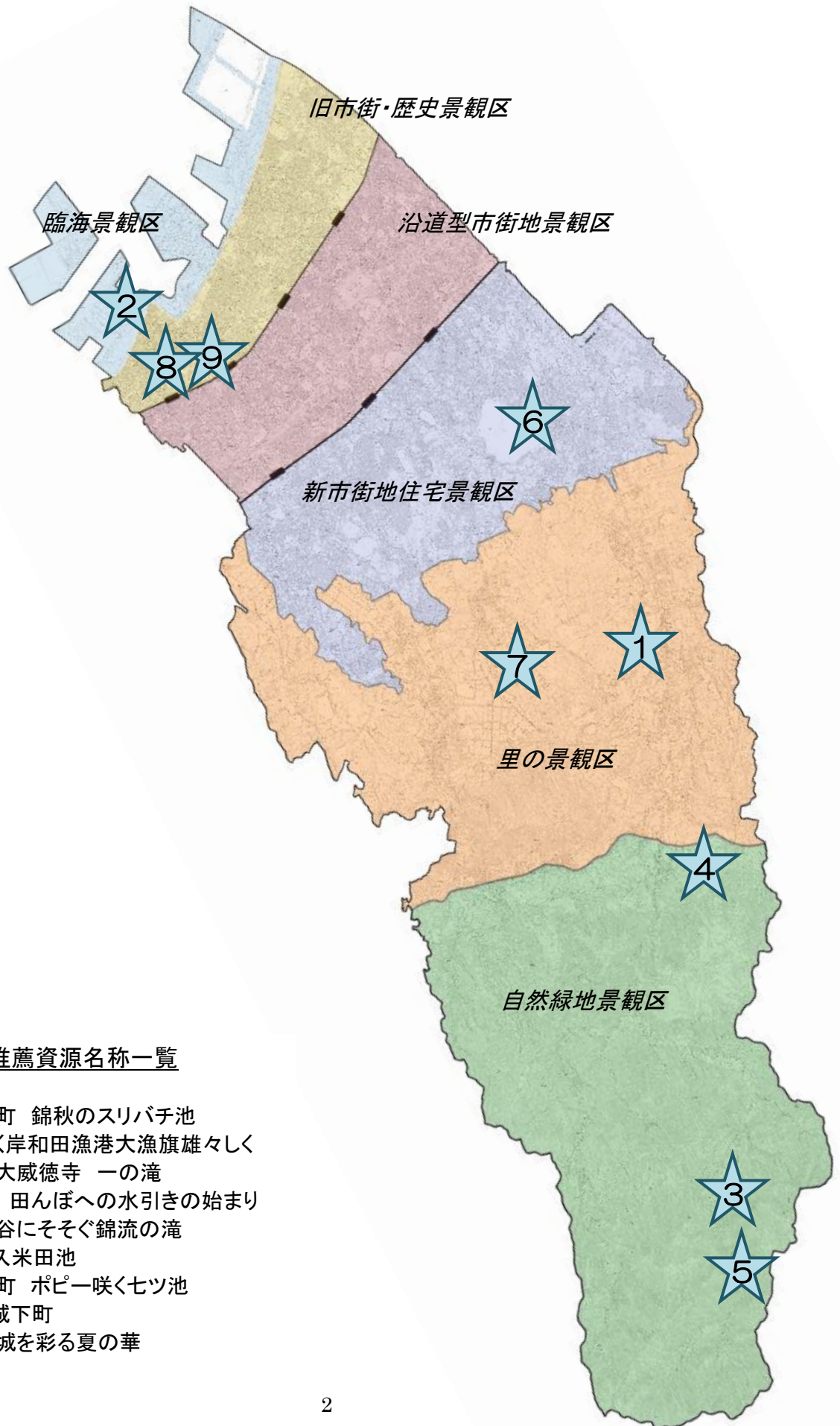
平成 29 年度

こころに残る景観資源（水辺）9 件について

平成 29 年 12 月 27 日

こころに残る景観資源発掘委員会

こころに残る景観資源(水辺②)の推薦箇所一覧



推薦資源名称一覧

1. 山直中町 錦秋のスリバチ池
2. はためく岸和田漁港大漁旗雄々しく
3. 牛滝山大威徳寺 一の滝
4. 内畑町 田んぼへの水引きの始まり
5. 牛滝の谷にそそぐ錦流の滝
6. 水鳥と久米田池
7. 田治米町 ポピー咲くセツ池
8. お堀と城下町
9. 岸和田城を彩る夏の華

1. 推薦資源の詳細と講評

① 山直中町 錦秋のスリバチ池

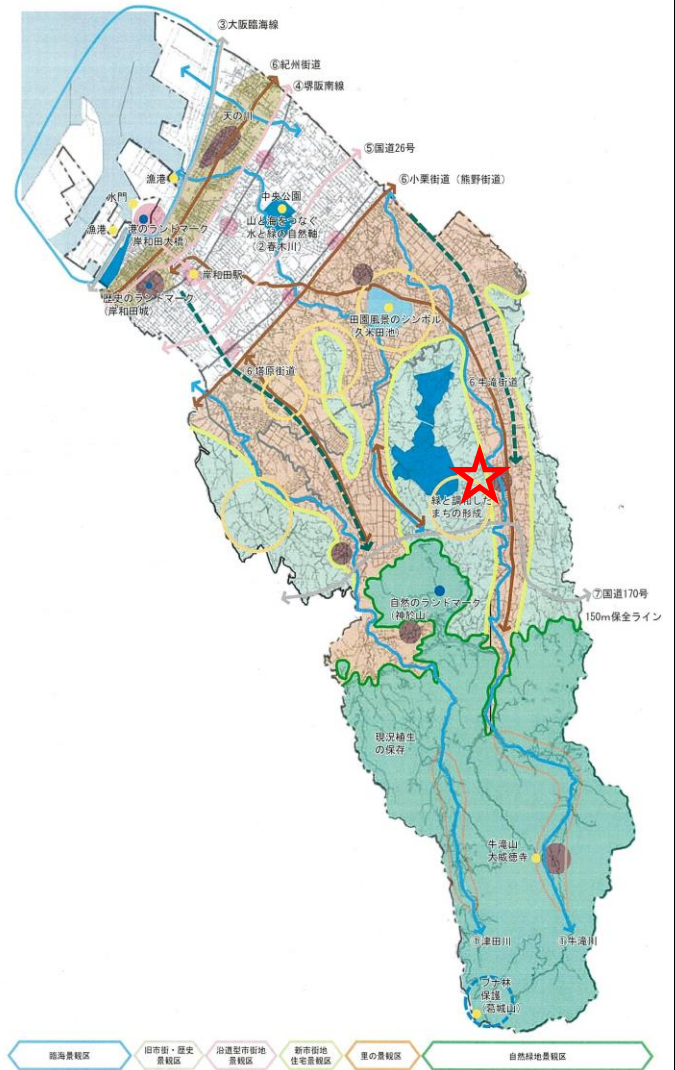
【写真】



【位置図】 山直南校区



【景観誘导图】



基本景観区域名	里の景観区
景観軸	—
景観配慮地区	丘陵地区

■エピソード No.16 「錦秋のスリバチ池(山直中町)」

秋晴れの朝日に輝くスリバチ池。色とりどりの紅葉と緑の木々が青い池に映り、一幅の絵画を見るようでした。しかしながら岸和田丘陵地再開発事業の工事が間際まで迫り、環境の変化による要因で、この光景が見られなくなるのではとの一抹の不安も覚えた。これからも残ってほしい景観である。(73 歳/男性)

■講評

錦秋のスリバチ池は、色とりどりの木々が水面に映り、幻想的な美しさが際立ち、四季折々の趣が感じられる水辺である。周囲の桃畑や祠など地域の人々に大切に守り継がれてきた景観は、水辺の魅力をより一層引き立たせるものである。今後、隣接するゆめみヶ丘のまちづくりが進み、新しいまちなみがこの池を引き立てよう調和を図りつつ、そこに暮らす住民にも愛される景観として期待するものである。

② はためく岸和田漁港大漁旗雄々しく

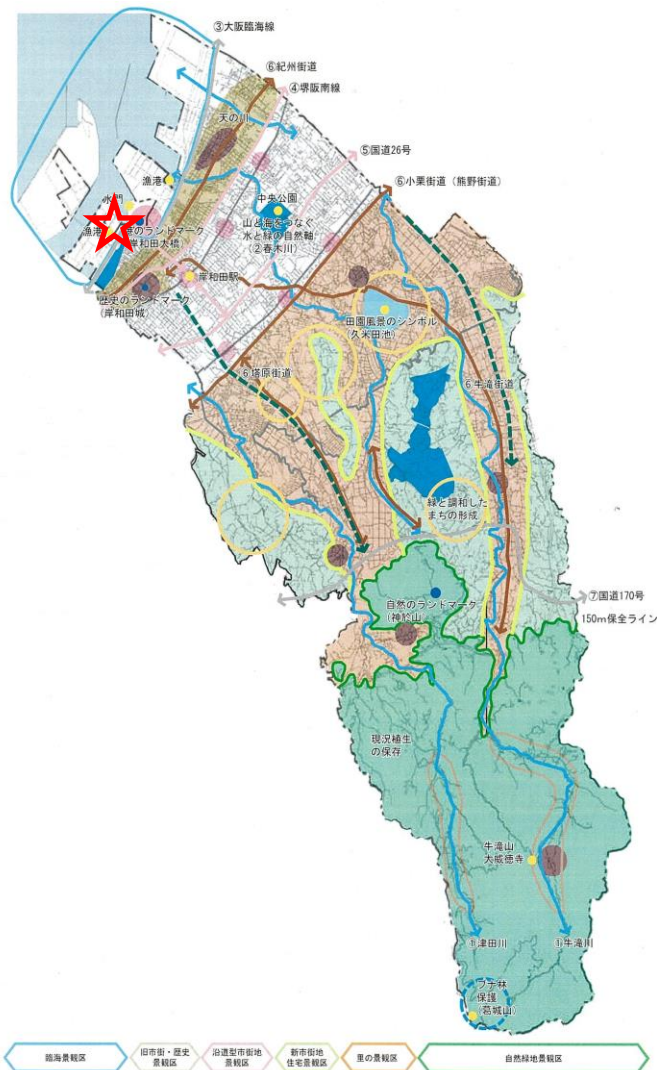
【写真】



【位置図】 浜校区



【景観誘導図】



基本景観区域名

臨海景観区

景観軸

大阪臨海線

景観配慮地区

旧港

■エピソード No.54 「はためく岸和田漁港大漁旗雄々しく」

新年元旦、青空の岸和田漁港に港一杯に雄々しくたなびく漁船の大漁旗の姿は、この年の人生の励ましと喜び、心の幸福が湧き上がる。また水面の景観は、さらに心を躍らせる。岸和田の漁師の方々の航海安全と大漁の祈願に尊敬し、住民の心からの支援を新年の太陽神に大手を広げて願う。岸和田の漁師の安全活躍は、住民の幸福を培い、地域発展をもたらす。今年も新年から、漁港、漁船の大漁旗にこころウキウキ、人生の将来、未来への勇ましい希望が湧いてくる。(77歳／男性)

■エピソード No.34 「大漁を願って」

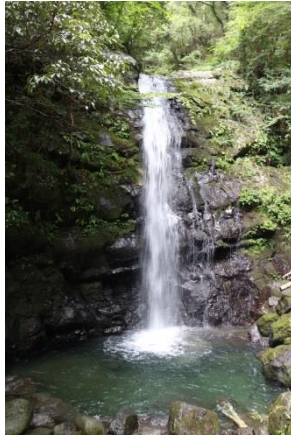
多くの漁船が整然と並んでいます。どの船にも様々な大漁旗がつけられ、その姿は勇壮であり、圧巻される景観です。(44歳／女性)

■講評

岸和田を特徴づける漁港は、多くの漁船が整然と並び、人々の営みと賑わいが感じられる水辺である。特に大漁旗がたなびく風景は、航海の安全と大漁を祈願する新年の風習を今に伝えるものである。また、海産物を身近に買うことができるイベントなどが行われており、これからも地域住民に愛される景観として継承してもらいたい。

③ 牛滝山大威徳寺 一の滝

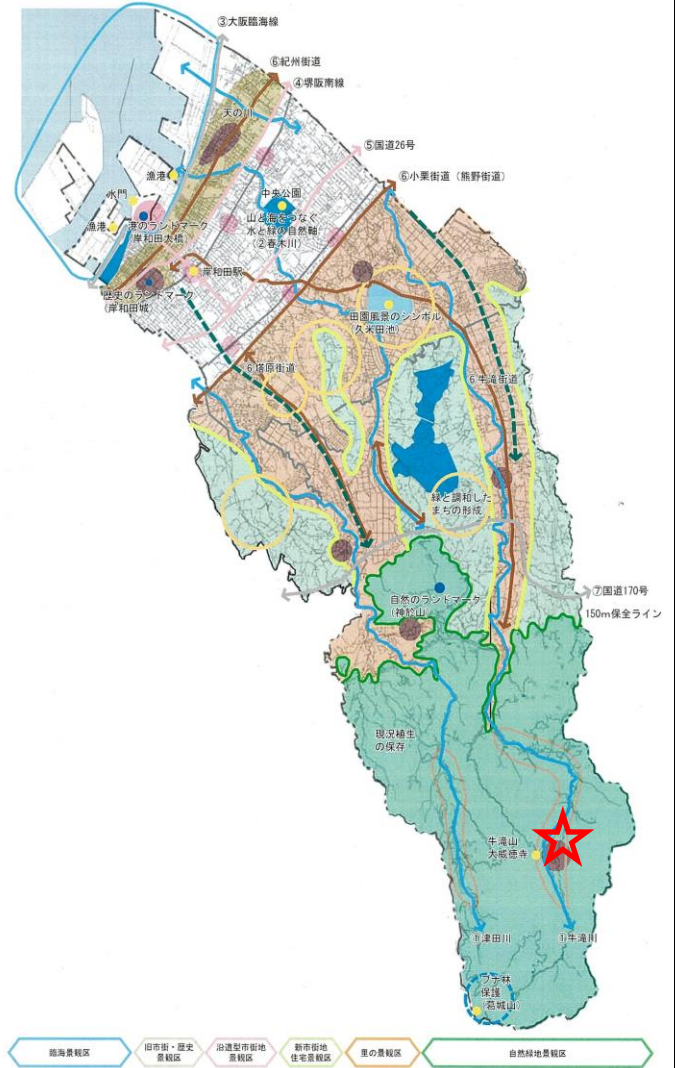
【写真】



【位置図】 山滝校区



【景観誘導図】



基本景観区域名

自然緑地景観区

景観軸

牛滝川

景観配慮地区

牛滝山周辺

■エピソード No.1 「牛滝(一の滝)」

私のこころに残る水辺景観として、牛滝山大威徳寺奥の一の滝から二の滝までよく吟行し、滝の春夏秋冬を撮影します。寺の境内に旧山滝村(現内畑町)が生んだ有名な俳人、鈴木大林男先生(故人)の句碑があります。「滝壺を 出でずに遊ぶ 水のあり 大林男(むりお)」牛滝川の源流に近い清流のこの滝は季節ごと水辺の景色をかえ、市を代表する水辺の景観として推薦します。「山門に 爆音 微か 一の滝」俳号 赤心子(せきしんし)(71 歳/男性)

■エピソード No.13 「牛滝山大威徳寺の一の滝」

この滝は家からも近くそれほど人も多くないのでよく夏に涼みに行きます。子供の頃はなんとも思っていませんでしたが大人になってからいくと、その心地よさに感動しました。(29 歳/女性)

■エピソード No.62 「激流」

牛滝温泉から大威徳寺の境内を抜け、牛滝山に入るとバーベキューをする人たちの楽しげな声が遠くなり、だんだんと水の音が迫ってきて、滝が見えた。滝の前に立つと、あれだけ感じていた暑さが消え、自然の涼しさを感じる。滝の音に耳を澄ませ、澄んだ滝壺を見ると、時間を忘れる。せつかくの素晴らしい水辺なのに人があまりおらず、より多くの人に知って欲しいと思い応募しました。(16 歳/男性)

■講評

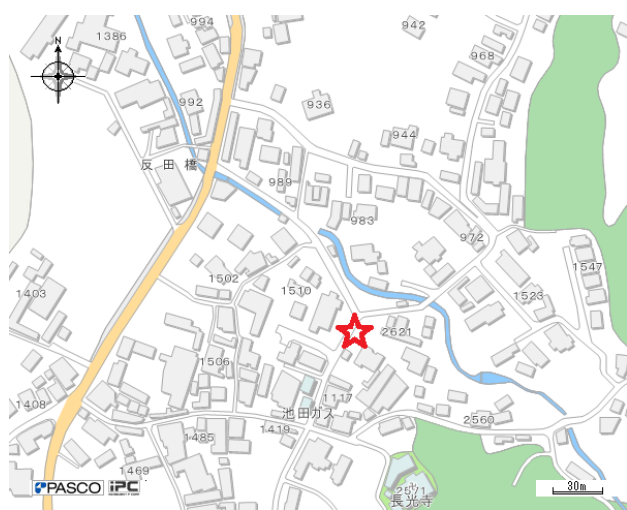
紅葉の名勝として古くから知られる牛滝山大威徳寺と一体をなす「一の滝」は、和泉名所図会にもあるように歴史の重厚さを感じる水辺である。四季折々の趣と葛城修験場の静寂のなか、落差のある滝は句碑に詠まれるように迫力があり、視覚のみならず五感を楽しませてくれる。古刹とともに多くの人々に訪れてもらいたい景観である。

④ 内畑町 田んぼへの水引きの始まり

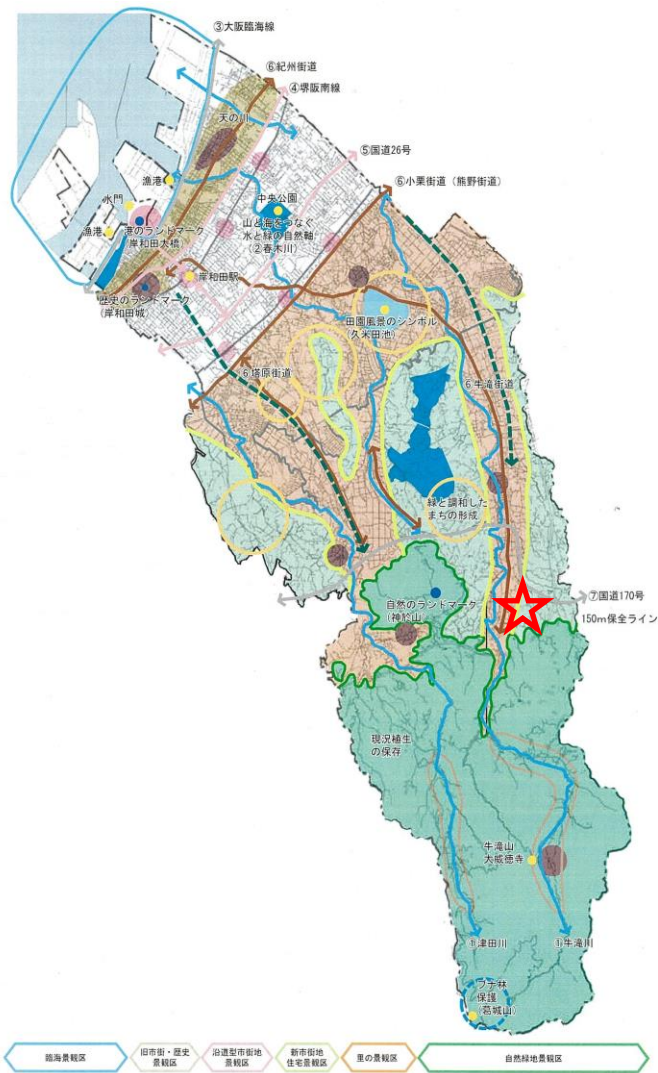
【写真】



【位置図】 山滝校区



【景観誘導図】



基本景観区域名	自然緑地景観区
景観軸	—
景観配慮地区	—

■エピソード No.38 「田んぼへの水引きの始まり」

きれいに維持管理された町中を流れる水路に澄み切った水が走り、もうすぐ田植えが始まるのかと感じさせてくれます。(48 歳/男性)

■講評

古民家が立ち並ぶ集落内の水路には透き通った水が流れ、自然の恵みと人々の営みが感じられる水辺である。蔵や民家などの歴史的な風情が管理の行き届いた水路と相まって地域固有の趣が感じられる。長い年月により培われたこの景観をいつまでも守り継いでもらいたい。

⑤ 牛滝の谷にそそぐ錦流の滝

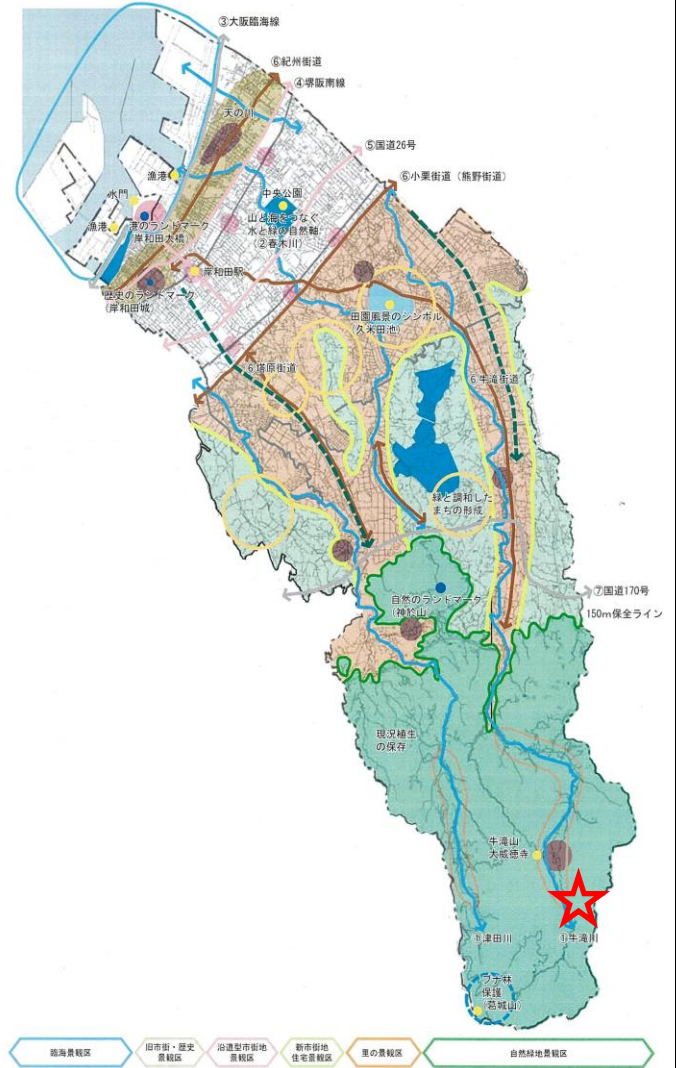
【写真】



【位置図】 山滝校区



【景観誘導図】



基本景観区域名

自然緑地景観区

景観軸

牛滝川

景観配慮地区

牛滝山周辺

■エピソード No.36 「牛滝の谷にそそぐ錦流の滝」

和泉葛城山から流れる小さな水の流れはいつしか錦となって滝になり牛滝へと流れ、人々の営みを支えてくれる。自然が多い岸和田らしい景観です。(48歳/男性)

■講評

錦流の滝は、古くから岸和田を代表する景観として、岸和田八景(小川翠村)にも描かれている水辺である。苔むした岩場を縫うように流れる川は、まさに錦の様な美しさであった。溪流沿いを散策し、緑豊かな自然を楽しみながら出会うことができる景観である。

⑥ 水鳥と久米田池

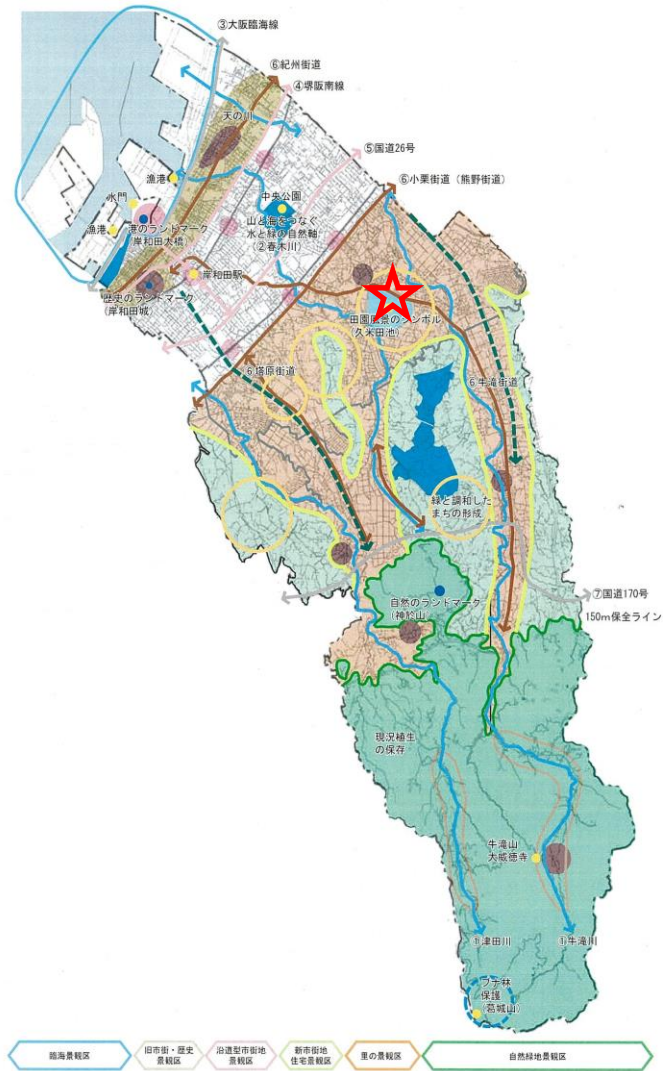
【写真】



【位置图】 山直北校区



【景觀誘導図】



基本景觀区域名	新市街地住宅景觀区
景觀軸	牛滝街道
景觀配慮地区	久米田池周辺

■エピソード No.7 「水色の世界で佇む・久米田池」

アオサギが沢山いますが、この鳥さんは何を見ているのでしょうか？ このコは…水色の世界に溶け込んで幸せそうにみえました。きれいな池をいつまでも私たちが保持して、いつまでも鳥たちのお気に入りの場所であってもらえればいいなと思いました。(59 歳/女性)

■エピソード No.9 「卵を温めるオオバン・久米田池」

黒い顔に白いお化粧をしたオオバン。6個以上も一度に卵を産むんですね。みんな元気に孵ったらいいですね。鳥さんもお母さんはたくましいです。こんな環境をいつまでも大切にできるのは人間の力！岸和田の力！久米田池がいつまでもきれいなため池であるように！と、みんなの意識ができれば！と思います。(59歳／女性)

■エピソード No.63 「夕日と鷺」

久米田池の夕方(4月後半)(55歳/男性)

■講評

地域の人々により維持管理されている久米田池は、多様な生態系を育み、親しみと賑わいのある水辺である。多くの野鳥が生息し、まちなかの貴重なオアシス空間として象徴的である。また、季節の移ろいや潮汐によりまた違った表情を見ることができる岸和田を代表する景観である。今後も、人々の営みや地域固有の魅力を感じさせてくれる景観が発掘されることを楽しみにしたい。

⑦ 田治米町 ポピー咲く七ツ池

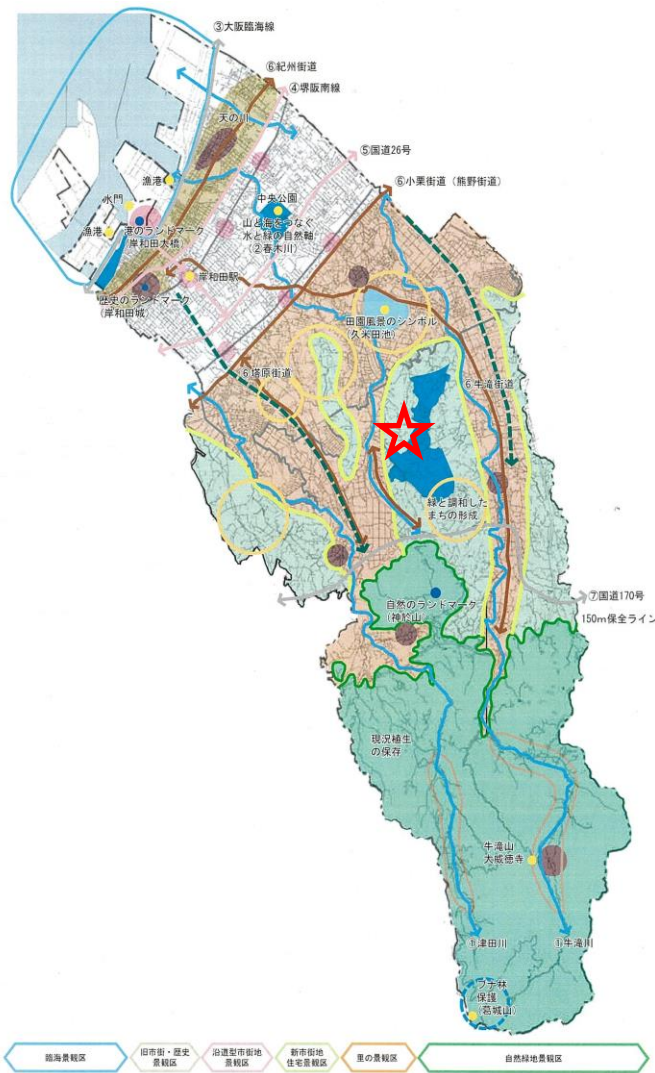
【写真】



【位置図】 光明校区



【景観誘導図】



基本景観区域名	里の景観区
景観軸	春木川
景観配慮地区	春木川周辺

■エピソード No.22 「ポピー咲く七ツ池・田治米町」

蜻蛉池公園に隣接する七ツ池。この池は蜻蛉池と共に田治米町の池である。春の新緑、秋の紅葉も美しいが、ゆったりとした池面に花が映えるこの季節も素晴らしい。(73歳／男性)

■講評

山並みと四季折々の季節が感じられ、開放的な眺望を満喫することができる水辺である。秋には、紅葉した木々が湖面を美しく彩っており、周囲の農地と調和した豊かな自然を感じながら、静寂の中に小鳥のさえずりが心地よく聞こえ、神於山や和泉葛城山系などの遠景も楽しめる景観である。

⑧ お堀と城下町

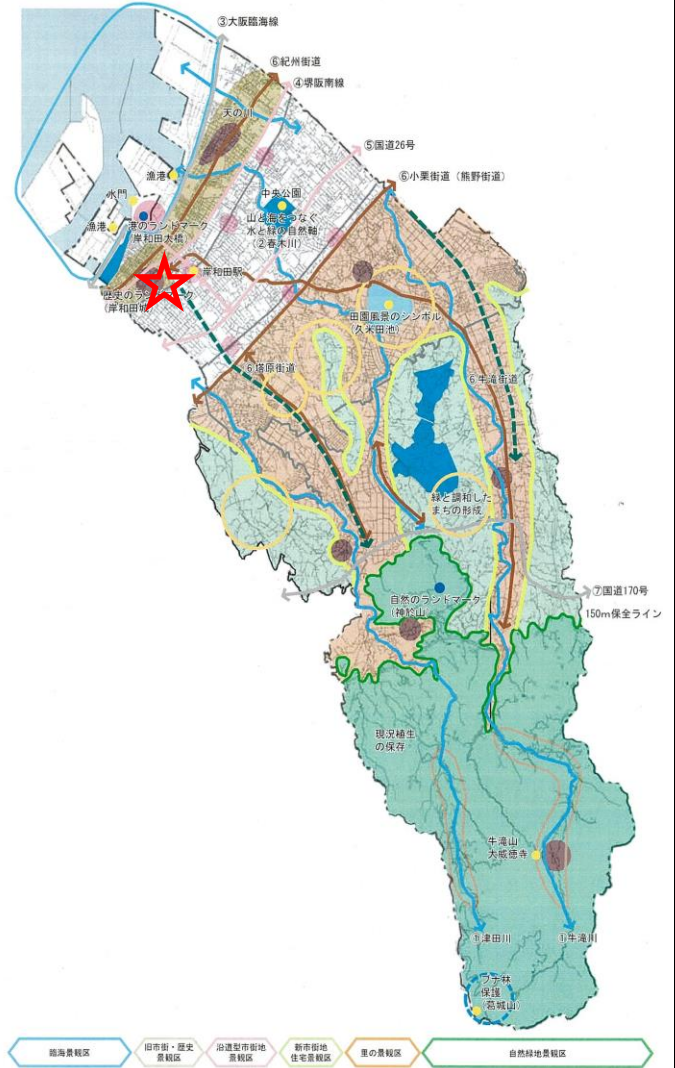
【写真】



【位置図】 城内校区



【景観誘导图】



基本景観区域名	旧市街・歴史景観区
景観軸	堺阪南線
景観配慮地区	岸和田城周辺

■エピソード No.56 「お城とお堀と城下町」

岸和田城のお堀はよく散歩にきて、心おちつく場所です。水蓮の花の咲く頃、水の色と空の色、むこうに見える城下町がとても好きです。(67歳／女性)

■講評

岸和田城の堀ごしに、歴史の風情を感じられる本町の美しい瓦屋根のまちなみを見ることができる水辺である。堀の水面に睡蓮が一斉に咲き誇る時期には、写生や写真撮影に多くの人々が来訪され、四季折々の趣と親しみを感じることができる。岸和田城には視点場によって様々な魅力があり、まさに岸和田を代表する景観となっている。

⑨ 岸和田城を彩る夏の華

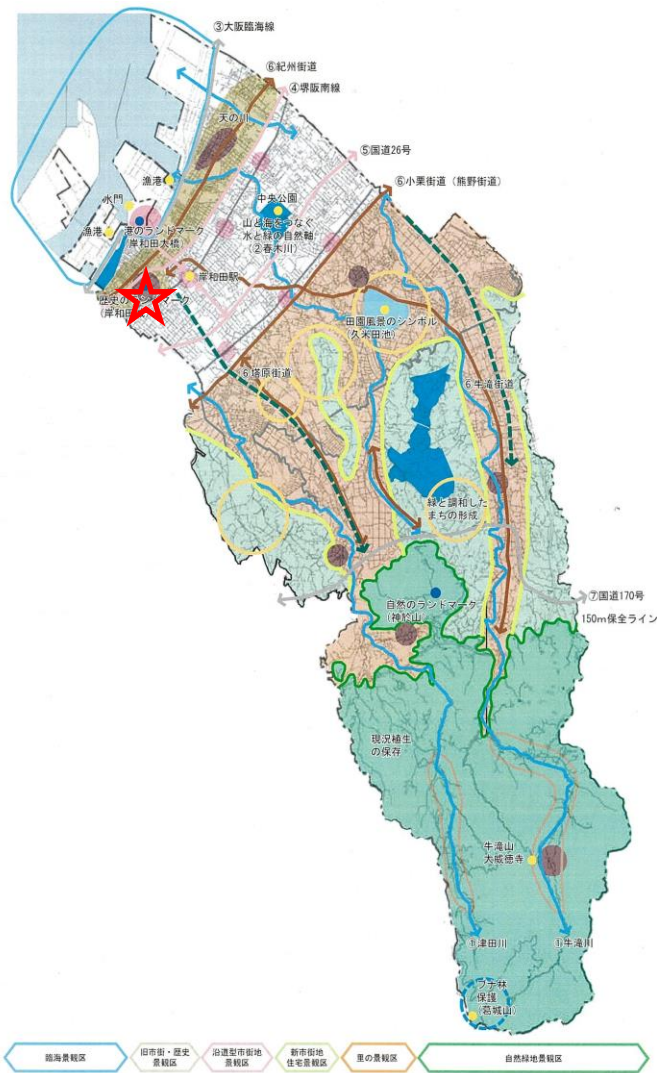
【写真】



【位置図】 城内校区



【景観誘導図】



基本景観区域名	旧市街・歴史景観区
景観軸	堺阪南線
景観配慮地区	岸和田城周辺

■エピソード No.33 「岸和田城を彩る夏の華」

毎年楽しみにしている岸和田の花火大会を今年は岸和田城から見学しました。お堀に映る花火は美しく見る人を魅了してくれる景観です。(44歳／女性)

■講評

夏の風物詩となっている港まつりの花火が水面に映り、岸和田城の借景となった美しい水辺である。修景整備された散策道の堀端から遠目に花火を楽しむ新たな名所として斬新さを感じた。多くの市民に愛され、岸和田を代表する景観としてこれからも岸和田城の新たな魅力を発掘してもらいたい。

2. 総評

前年に引き続き実施した水辺景観は、岸和田を特徴づける海から山まで様々な 67 件の水辺について応募があり、桜や紅葉など四季折々の趣やこれまで培ってきた歴史文化、多様な生態系が感じられる自然景観、漁港や農空間など生業や営み、季節のイベントなど人々の関わりに代表される生活景観など岸和田の魅力が満ち溢れたものであった。

まちかど審査では、岸和田城や久米田池など岸和田のシンボルとなる場所から、滝やため池など普段気づかない景観の魅力を再確認し、郷土への愛着をより深めてもらえたことと思う。

また、応募写真だけでは把握できない現地での調査を行い、当該地の広がりや経路、季節の移ろいなどを踏まえ、選考された水辺景観は見る人を満足させてくれるものであると感じた。

今後もプロジェクトを通じ、様々な場面で触れ合える人が増え、岸和田の魅力が広く認知されていくことを期待する。

岸和田 景觀 MODE